笑顔かがやく光っ子　みんなで育てる光っ子

学校便り

第３１７号
平成２５年１０月２日

練馬区立光が丘第八小学校
校　長　　鈴　木　隆　志

群 青 色 の 空 と 一 番 星

校　長　　鈴木　隆志

先日の運動会では、早朝より大勢の皆様に御来校いただき、誠にありがとうございました。応援に来ていただいたおうちの方々や地域の方々とも一緒になって、みんなの熱い思いが一つにまとまり、紡いで創る光八小らしい運動会ができたのだと思います。光っ子たちが運動会で見せた、一人一人の輝きやひたむきさは、未来を創る光っ子たちへの夢を語るような、“生きる力”となっていくことと確信します。

２０２０年のオリンピック・パラリンピックが東京で開催されることに決まりました。１９６４年の大会から５６年ぶりの東京五輪です。１９６４年の東京五輪の時、私は小学３年生でした。当時の６年生は国立競技場に招待されたので、羨ましい思いをしたことを覚えています。五輪を前に、街が大きく変わっていく姿も目の当たりにしました。五輪記念の切手や硬貨を集めた思い出もあります。

子供のころの私は、毎日の放課後が楽しくてたまりませんでした。たくさんの友達と誘い合って、原っぱで遊びました。巨人の長嶋茂雄さんが活躍していた時代ですから、遊びの中心は野球でした。草むらに入ったボールを探し回ったり、セーフ・アウトでけんかになったり、隣家のガラスを割って謝りに行ったりと、毎日毎日飽きもせず遊び続けていました。夕暮れになって家路につく時の挨拶は「またあした。」です。原っぱに集まる時は駆け足なのに、帰り道はのんびりとバットにグローブをさして肩に担ぎ、寄り道をしながら帰ります。あの頃よく道ばたに落ちていた色のきれいなタイルを拾い集めたり、どこからか聞こえてくるピアノのお稽古の音色にうっとりとしたり、あちこちの家の台所からの夕餉の支度のおしいそうなにおいにお腹を鳴らしたりしながら、毎日のように眺めていた夕暮れ空の色が忘れられません。テレビも白黒からカラーに変わって、色に対する感性も磨かれたのかもしれません。夕暮れ空の色は「群青色（ぐんじょういろ）」でした。群青色の夕暮れ空が広がり、その中に一番星を見つけることが日課でした。「またあした」という気持ちにつながる空でした。

子供の頃の印象が強く残り、今でも私は群青色が好きです。一番星を見つけると嬉しくなります。今の光っ子たちも、あの頃と同じ空の下で育っています。外で遊ぶことの大好きな光っ子たちです。仲間と一緒に遊ぶことの大好きな光っ子たちです。あの頃の私と同じように、群青色の空や一番星に目を向ける子もいるのかもしれません。

子供の体力向上が叫ばれている昨今ですが、体育の授業や運動会、マラソン大会、縄跳び大会等の行事だけで体力が向上するとは思いません。私は、子供の体力の基本は遊びの中にあると考えます。外でみんなと遊ぶことによって、筋力、瞬発力、持久力、調整力、敏捷性、柔軟性、平衡性といった体力が身に付いていきます。それだけでなく、判断力、協調性、意欲、積極性、根気、社会適応力等も育まれていきます。外でたくさん遊ぶ光っ子でいてほしい、たくさんの友達と一緒に遊ぶ光っ子でいてほしい、そう願っています。

１９６４年の空も、２０１３年の空も、２０２０年の空も、同じように子供たちの未来を見つめています。遊びの中で体力を身に付けた光っ子たちの中から、未来のオリンピック選手が誕生することも夢ではありません。私も、一番星に願いを掛けてみたくなりました。